

省スペース5G電波試験

森田テック、MIMO対応

【立川】森田テック（東京都稲城市、森田治社長）は、アンテナカプラを使った省スペースな第5世代通信（5G）向け電波送受信試験システムを開発した。サブシックスと呼ばれる6ギガ（ギガは10億）に近い周波数帯において、通信速度を向上する技術のMIMOの試験を行える。基地局シミュレーターを除いた試験システムの価格は500万円（消費税抜き）から。通信事業者などへ導入を促し、同システムで年間5億円の売上高を目指す。

シールドボックス内、信に使うアンテナカプラを、試験周波数帯に試験対象となる5Gラを、試験周波数帯に端末と、密着あるいは合わせて任意の台数配近距離での電波の送受信。基地局シミュレー



ターと同ボックスをケーブルで接続して試験を行う。森田テックのアンテナカプラは試験対象端末などを上に置くだけで、サブシックスアンテナで試験をする

アンテナカプラを複数台使い、省スペース化した5G向け電波送受信試験システム

スやミリ波帯といった周波数の理論伝送レートを実現

場合、対象端末と数センチ離して行う必要がある。送信機と受信機の双方で複数のアンテナを用いることで通信速度の向上などにつなげるMIMOの試験では、広い空間が必要だったりコストがかさんだりする傾向にあるという。

森田テックは機械・電気設計、ソフトウェア開発技術などを基に5G、電磁環境適合性（EMC）、シールド、高周波といったソリューションへの対応を得意としている。今回開発した試験システムは同社が品ぞろえするアンテナカプラやシールドボックスなどの既存製品を組み合わせて構築した。